

療育研修会(水泳指導)開催

島根県支部長 沖野 巖

7月26日(土)、27日(日)の両日、国立病院機構松江病院のプールを利用して、「平成20年度中国地区筋ジストロフィー患児と家族のための療育研修会(水泳指導)」が開催されました。今年は昨年より参加者も多く、中国各県より、3歳から15歳までの児童9名とそのご家族が参加。松江病院からは医師、看護師、理学療法士、療育指導室スタッフの各職種17名がスタッフとして参加していただき指導助言を頂きました。併せて今年は、広島西医療センターより研修のため参加された児童指導員・保育士6名も加わり、総勢60名で賑やかに始まりました。

初日は、開会式後、広島県支部の阿部副支部長(日本ハロウイック協会理事)、小林広島県支部長(ハロウイック水泳法指導者養成講座終了者)の指導のもと、親子・スタッフと共に「ハロウイック水泳法」による水泳指導を行いました。「ハロウイック水泳法」は、浮き具を使用せず、マンツーマンでゲームプログラムを中心に楽しむことを重視します。楽しみながら、いかに最小限の適切な補助でリラックスして体を動かすことができるか、というものです。水泳は、呼吸機能に対するリハビリテーションにも役立つということで、参加者の方々からも「地域に帰ってもプール活動を続けていきたい。」と、うれしい感想が寄せられました。

プール後には、保護者を対象に「在宅ケアのこつ」と題した研修会も開かれました。成長期の子供達に対する医療やリハビリのポイントについて、小児科医師、理学療法士、看護師から分かりやすく説明を頂くと共に個別相談にも応じて頂きました。

夜は、参加者全員による手作りの夕食会で交流を深めました。保護者やスタッフとの意見交換では、在宅生活の悩みなども多く聞かれ、ご家族同士の連携も広がり大変有意義な時間を過ごすことができました。また子供たちも体育館でゲームをしたり、院内を探検するなど、レクリエーションでおいおいに楽しみました。

翌日の午前中にもう一度水泳指導を行い、無事日程を終えることができました。参加者の方々からは「来年度も参加したい。」という声も聞かれ、充実した研修会となりました

